

第9回日野川フォトコンテスト表彰式

第12回日野川への想いを語る会の中で第9回日野川フォトコンテストの表彰式が行われました。



特別講演

「自然とのふれあい やすらぎの空間について」

講師

日吉津村議会 副議長

橋井 満義 さん

今、431の皆生大橋の付近に「水辺の楽校」というテーマで、国交省さんに整備をして頂いておりますが、今日はこの事業の概要、過程について少し紹介させていただきます。

平成13年の後半ごろでしょうか？住民と行政メンバーで、委員会を組織して日吉津村の日野川環境整備計画を策定し、さらに国交省さんとの意見交換を重ね「水辺の楽校」として登録し、支援を受けながら、実現に向けた方向性を探ろう、ということになりました。そこで、子ども達の力を借り、「子ども達の視点から見た川とはどんなものか？」夏休みの課題として絵を書いてもらいました。集まった作品には、池の中に浮く家、公園、ボート、雨天多目的グラウンドなど、さまざまなアイデアが出てまいりました。中には「川で泳いでみたいな」というものもあり、今の子どもにもそういう気持ちがあるんだということも確認しました。こういった子ども達のアイデアを何とか形にしたいという思いから、集まってきた絵を元にメンバーの一人に無償で5つの絵をかいて頂き、計画書を国土省に提出したところ、その次の年、めでたく水辺の楽校の認定をいただきました。

計画書では、まず、日野川の河口付近は、魚釣りができるように流導堤を延長します。砂防柵を設け、砂浜を復元し、松を植えます。今は野鳥が来ている中州には、東屋(あずまや)を設けて、潜水橋をかけます。道路の反対側は、ギンナンと柳並木を設け、緑地化を推進します。431を渡ったト

イレがあるあたりは、防災ゾーンとして、ヘリポートにします。また、隣のトイレの非常時の電力を間に合わせるために風力発電も設けます。また、王子製紙付近の道路には、県の銘木百選に選ばれたハゼの木がありますが、今はもう枯れて1・2本になってしまいました。何とかこれも復元させていきたいと考えております。水辺にはヨシとショウブなど、さまざまな水生、根を張るもので汚れた土壌を緑化し、うちの役場の職員培養した蛭を放します。また、子どもさんやお年寄りの方のために、車いすでも十分にある程度往来ができる緩いスロープも計画しました。自然の立ち木はそのまま残し、子ども達の親水エリアをきちっと確保します。それから、ここの土手は大変傾斜を緩くしていただいておりますので、段ボールをおしりに敷いて、ちょっとでも滑りおられるようなフィールドになっております。これから整備された施設をどのように使っていくか？が大きなテーマになると思っており、これが私たちの大きな務めでもあります。今後、日野川にかかわる連携をさらに密にすること、日野川の活性化を図っていくことが大切であり、日野川への想いを語る会の皆さんにもお力添えを頂きますようお願いいたします。

